

ゆるり

昭和堂・ゆるりで
出版された本のご紹介

VOL.29

特集

「レクイエム」

記憶よ永遠に

近年「追悼集・遺稿集」のご相談が増えています
人はなぜ故人を偲び追悼のための本を残すのでしょうか
今回は、実際に出版された本をご紹介します
その想いを伝えることができたいと思います

■絶好調を口ずさんで／西村浩佑&西村康子

■おりおりの飛翔／久保恒子

■愛する人を亡くした方へ／木場和美

■堀江禮二水彩画集／堀江みも

■茜色の空へ／西村由加・「思い出・追悼集」西村正義

■歌集「沙羅のささやき」小野富美枝

■遥かなる道―母、藤枝 来し方の記／富永健司

■現代に甦る古代文字の世界／最上静山

■建設長崎70周年記念誌／長崎県建設産業労働組合

■医療と福祉のてびき／医療と福祉を考える長崎懇談会

木場和美「愛する人を亡くした方へ」より 光（希望）



自費出版サロンゆるり

株式会社 昭和堂

「ゆるり」は長崎県内の主なコミュニティ
施設に無料で配布しています。

絶好調を口ずさんで

ころっけ日記&絶好調ノート

西村浩佑&西村康子著

西村義文監修

二十四歳、若くして逝った西村浩佑さん

昭和六十二年（一九八七）長崎県諫早市生まれ。両親は、海のように広い心を持ち、人を引っ張っていく人になるように願いを込めて「浩佑」と命名する。平成十五年、諫早高等学校へ入学。ラグビー部に所属。三年では主将を務

める。熊本大学電気情報学科入学。二十二年、熊本大学大学院入学。まわりの人からは慕われ、尊敬される存在でした。しかし、二十三年十月三十日夜、熊本市葉園町のアパートにて突然の心臓破裂のために逝去されました。



■ A5判／346頁／糸綴製本／非売品

翌日、授業に來なかつたことを心配した学友らが、アパートへ出向き、彼が亡くなつてい

たことを知ります。

突然の訃報から 熊本でのお別れ会

（以下著書より抜粋）

十一月一日（火）朝の三時すぎ、熊本の警察より浩佑が亡くなったとの電話が入る。夫婦とも突然の電話の内容を受け止めることができず繰り返して確認をとる。受け入れることはできないものとしても熊本へ自家車で急ぎ向う。朝七時に熊本に着き、電話をされた熊本北警察署刑事課の係長さんに面会。発見時の様子の説明を受ける。そして浩佑との対面。主人は顔を撫でて、ただただずっと号泣していた。監察医より「心臓が原因で亡くなられました。病名は心臓破裂によるタンポナーゼ症候です」説明の後、しばらく病院的待合室でお互い茫然としていた。

浩佑を今日中に諫早の自宅へ戻そうと思ったが、五年半の学生生活で友人・知人もいただろうと思ひ急遽、大学近くの斎場でお別れ会をすることにした。



愛用の帽子とラグビーボール

熊本の地で百人余りの人が彼を送ってくれました。弔辞をお願いしていた皆さんが終つても、次々名乗り出て、浩佑へ言葉を下さった。彼の大学での交友関係を知ることができた。本当に心からありがたかった。

諫早へ 我が家へ

中学高校でクラブもクラスもいつしよの親友の中尾君は、東京より来てくれた。ラグビー部の同期・後輩たちも東京・大阪各地から来る。夜の十二時近く和歌山より尊敬する友人が駆けつけてくれた。

葬儀は三日午後二時より。弔辞は親友と恩師が述べられ涙を堪えながら、涙に咽びな



「だんまや水産」みなさん最後のエール

がら、浩佑へ語ってくださいました。一昨日お別れ会を催したにもかかわらず、熊本からも多数参列いただく。バイト先の「だんまや水産」の皆さん、いつも着ていた青色のTシャツを投げて、追悼してくれました。感動して涙が出た。葬儀はラグビーで始まりラグビーで締めくくった。総勢三百人近くの皆様に見送られながら、慌ただしく儀式が進む。玄関に並び皆様に挨拶して、車は火葬場へ向かった。本当にあつたという間に終わった。

絶好調を口ずさんで できるまで

本書は、母西村康子さんのブログを元に、平成二十六年



熊本小国町鍋ヶ滝にて

十月に出版されました。「ただ、浩佑が居たことを記したい所存で書き始めた」とあり、その内容の克明さには、親子の絆の強さが深く伝わってまいります。

本の内容は三章で構成されていますが、亡くなる年の秋にノートに書いた「人生の有限感」が彼の生き様でしたので序章として紹介しています。

人はいつ死ぬかわからない。明日は我が身という考え方。いつ死ぬかわからない、人生はいつまで続くかわからない。そういう意識が世の中の常識

に脈々と従う生き方に、立ち向かう源動力となる。何となく過ぎいく日常は、あたかもいつまでも永久に続くと思うかもしれない。でも、実際問題、終わりは突然（当然と言ってもよい）やってくる。そのために、今日という一日が人生最後の日と思い、生きて見るのもよい。そうすれば、いつか必ずそうした生き方を肯定できる日が来るだろう。交通事故をきっかけに、僕はこう思うようになった。

そして、もし死んだ時、周りには、あの人の生き方は「かつて良かった」と言われるよう、人様に「ありがとう」と言われたら良いなあ。（西村浩佑）

第一章 人生の有限感
 第一章 人生の有限感、子供を亡くされた深い喪失感の中で、生前浩佑さんが交際していた多くの方々との交流を通して、死後一年余りの事を、寄せられた文や写真、お話しなどを通して彼の



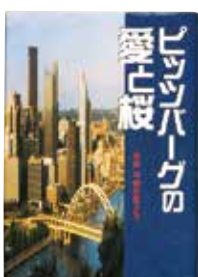
3年余りに書いていた9冊のノート

人となりを必死に伝えようとしています。

第二章は、浩佑さんが遺した九冊の「絶好調ノート」をひも解かれています。彼の生きてきた道、友、家族、就活、研究、バイト、理系の技術経営学講座への思い、好きな本、スポーツ、音楽、旅、言葉など詳細にわたって理解しようとされています。ご両親は、彼の文章は「自分のために書いたノートだが、私達にメッセージになって残してくれた。浩佑ありがとう」と言い、彼が逝った今、私達は何をなすべきかと自問します。「人は悲しんでばかりいないで、前へ歩みなさいと言う。」だが最愛の子を到底忘れることは



川野 幸著



松平和夫・慶子著

自費出版との出会い

しばらくの間、正直な話「ど

第三章は、浩佑さんのプロフィールをまとめています。

彼の思いを感じながら、彼と共に歩んでゆくことにゆき着きました。

きないし、消し去ることなど難しい。ならば逃げることもなく彼の死を受け止めるためにも彼の足跡を辿っていかうとされました。しかしながら彼の足跡を辿ることは、彼との別れを再確認する辛い結果にもなりました。それでも歩んで克服していくことで、何かがあると信じている。親として浩佑の生きざまや思いを残していくことが、私達自身のことを問うことにもなる。

うして私達だけがこんな不幸な目にあわなければならぬか」と、自らを哀れんではないか。ある時、知人より、同じような思いを体験した人たちが、それぞれに自費出版された本があることを紹介されました。特に感銘を受けたのは「ピッツバーグの愛と桜」（松平和夫・慶子著）で、ジャーナリストをめざしてアメリカへ留学。異国の地で二十六歳で亡くなった長男真弥さんへの追悼の記録と「パパ」（川野幸著）二十九歳で海難事故で亡くなった川野拓さん。二歳八ヶ月の息子さんが成長するまでにありし日のパパの姿を克明に伝えておくための記録集でした。

真弥さん、拓さん、二人とも一生懸命に前向きで明るく人を愛し、多くの人々に愛された人だったことがわかりました。まわりを見渡せば、同じ境遇の人たちが、こんなに近くにおられることを理解できた時に、その亡くなった人の意志を伝え、喪失感を乗り越えていく力強さを教えられたそうです。

おりおりの飛翔

追悼の花束

—亡き母に—



追悼の鐘

水のように流れ去る
時間のなかに
鋭利な刃物で
刻みつけよう
記憶という
消えない文字を

生き残った者の
傷の疼きは
鋭いG線の
アリアとなつて
空の彼方に飜る
忘れない思い出
不意の断層の
継ぎ目のない架け橋となつて

目を閉じ思いを込めて
追悼の鐘を鳴らそう
その時 死者たちは
私のなかに 生きている

紫陽花

七色のぼんぼりと
母はその花を呼んでいた
古い農家の裏庭に
雨に濡れ風に濡れて
つややかに その花は輝いていた

藍・紫・薄紫・臙脂に桃色
標色・清らかな白の
なるほどそれは 大きなぼんぼりの
灯りのように

誰れも住まなくなったその家は
広い空き地になつて
大きな柿の木だけが
来る年毎に たわわに実をつけている

今年もあの場所に紫陽花は
あのぼんぼりの灯りのように
変わらず輝いているだろうか
ほんのりと紺紺の似合った
母の姿が浮かび出る

おとうとへ

深い眠りのなかで
沈んでは浮かぶ 眠りのなかで
おまえはいつも悲しみの顔をしている

時には力無い ほほえみが
声なき絶望を洩らしている
いつも傷ついていた
いつも出発を探していた
何処へ？

残された一枚のポートレート
屈託ない笑顔で
友と煙草をくゆらせている
鮮やかなチューリップの花壇のなか
五月のぬけるような青空のなか

それはまるで
ゴッホの一枚の絵のよう
粗末な青い服
頑丈な労働者の体軀
澄んだ群青 燃える黄色
遠くで太陽のファンファーレが鳴っている

それは：
癒すことのできない 私の悲しみに
やさしい なぐさめを 与えてくれる

久保恒子



昭和十八年十二月
福岡県直方市に生まれる
(旧)国立福岡中央病院附属高
等看護学校卒業
以後、看護師として、長年勤務
される

本書の詩及び散文は、同人誌
「子午線」に掲載されたものを修
正、加筆したものです。

こうして一冊の書物としてま
とめてみると、これらの文章は期
せずして私の愛読した本の読書
遍歴の記録となった。加齢ととも
に体力、記憶力の衰えが益々加
速の傾向にある昨日今日、こう
して出版できたことを大変うれ
しく思います。(あとがきより)

※本文の詩は、「おりおりの飛
翔」詩編、追悼の花束
—亡き母に—より掲載いたし
ました。

判型:A5判 頁数:226頁 製本:糸綴製本 非売品

愛する人を亡くした方へ



木場 和美 著

■ 判型:15×15cm
■ 頁数:24頁
■ 製本:中綴じ

あなたの愛する人は、いつもあなたの傍にいる
楽しいときには一緒に笑って、
苦しいときにはそっと背中を抱きしめてくれる
私たちがいつもそうしていたように
だから、自分を責めないで
希望を捨てないで生きて行きましょう
誰かのために生きるのではなく
自分のために生きて行つてね
あなたの愛する人はきっと、そう言ってくれると
思います
私たちがいつもそう願っていたように



木場 和美
パステルアート講師・ストレスケアカウンセラー
病氣、障がいを持った子ども達とその家族のための
フリースクールサロン「リブルクラブ」主宰

ホームページ
「長崎パステルアート教室のふんわりアート」検索
携帯 090-6488-1956

■ 生きる

役目終え 君を迎えに 来る日まで
母は生きらん 桜抱きて

私の役目や使命が終わり「いい人生だった」と
思えたら、
そのときにきつと、息子に逢えると思っています
そのときは「よく頑張ったね」と褒めてもらいたい
そして、
「お母さん、あなたの分まで生き切ったよ」と
自慢したい
だからその日まで、
与えられた人生に言い訳をせずに生きて行こう
そんなふうに決意しました

※ ※ ※ ※ ※ ※

長男、貴大は難病と両手に障がいを持って生まれ、
六歳のとき骨髓移植中に亡くなりました。
二年後に生まれた二男も同じ病気で、長男を亡
くしただけでも筆舌には尽くせないというのに、
何故、私にこんな人生があるのだろうと絶望的
な気持ちになりました。

病氣や障がいを持った子どもたちには、何かお
役目があつて生まれてくることを理解するまで
に十数年かかりました。

二十一年経った今でも長男の名前を口にするだ
けで涙が溢れます。

パステルアート詩画集は、見るだけで癒される
ように、望まない現実と向き合える勇氣、希望
を持ち続けられるような色を使って描いていま
す。

堀江禮二水彩画集



堀江 みも 編

■ 判型:25×25cm
■ 頁数:64頁
■ 製本:ガンダレ製本
■ 非売品



ガーベラ 2007.4.19



サザンカ
2006.1.5



つつじ コミセン
2003.4.18



りんご
2006.11.18



海を望む 千々石
2004.10.6



大村の展望 琴平岳
2003.10.30



ロザ・モタ広場 野岳
2004.3.15



静物 2003.7.25



作業着 2003.1.14



茜色の空へ

あかね

西村由加遺稿集／思い出・追悼集

西村正義・洋子 著



ならべるもよう 小学校1年時作品

輝く未来を現実に
作家になる。
素晴らしい文章を
書けるようになる。

幼少のころから読書を
愛し、文章を書くのが
好きだった西村由加さ
ん。お茶水大学文教育

学部言語文化学科日本
文学コースを卒業後、作
家になることをめざし、
海外留学やいくつもの職
業を経験し、作品を書
き溜めていましたが、平
成二十六年にうつ症状が
悪化し逝去されました。
ご家族は、由加さんの
残された作品を「遺稿
集」として、皆さんから

寄せられた弔意と幼少か
らの思い出を「追悼集」
として一周忌を前にまと
めあげられました。
以下ご家族の手記を
もとに、ご紹介します。

少年と クリスマスツリー

娘、由加がこの世を去り、
時が経つても、忌は明けても、
在りし日の一齣ひとこまが、
蘇って消えることはありません。
しかし、いくら悔んでも
どうしようもなく、何かして
やれることはないかと思いつ
いたのがこの遺稿集をまとめ
ることでありました。

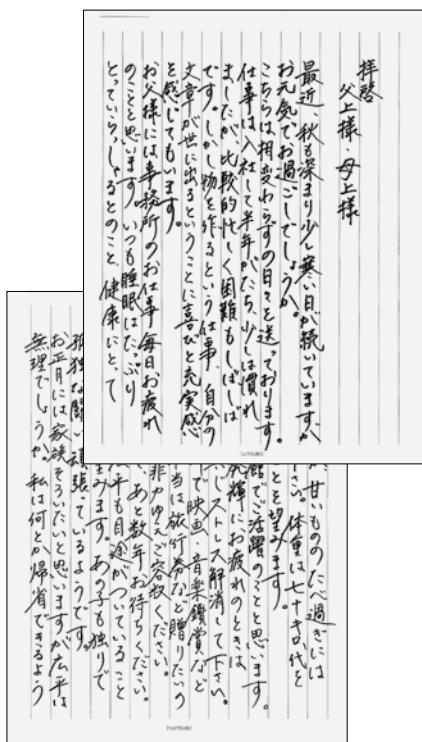
親としましては、由加が病
と闘いながら、自分としては
一生懸命に生きようとし、自
分なりに頑張り通そうとした
その努力の跡を少しでも残し
てやれないかと思つたのであり
ました。そして、そういう由
加の日頃の心情が表われてい

ると思われたものに「少年と
クリスマスツリー」がありま
す。これは人々の願いを犠牲
にしながら、それに気付かず、
自分の目的を果たそうとした
少年を親が泣きながら許すこ
ろで終わっています。「親の
愛や人々のやさしさに甘える
だけで育った心は、決して正
常なものにはならない。やが
ては、自分が受けた愛への裏
切りになつて表われるものだ」
という考えが由加の深層心理
としていろいろな文章の底流
となつていくように感じまし
た。また、由加は自分が人に
迷惑をかけるだけで何の役に
も立っていない存在であるこ
とを思ひ続け、それは両親や自
分が関与した人々の期待を裏

切つていのではないかという
罪の意識に苛まれ、自分自身
を責め続けていたように思
います。

本編は、作品五編、応募
作品三編、感想・論評四点、
他「折々の記・断片」として
掲出しました。本のタイトル
はいろいろ考えた末、「茜色の
空へ」とすることにしました。
由加の作品の中で、「マゼンタ・
イン・ザ・スカイ」に見られ
る主人公のように希望に向
かつて前向きに生きようとし
ている由加の姿が、「茜さす」
朝焼けの空へと旅立つように
思えたからです。

（遺稿集「あとがき」より）

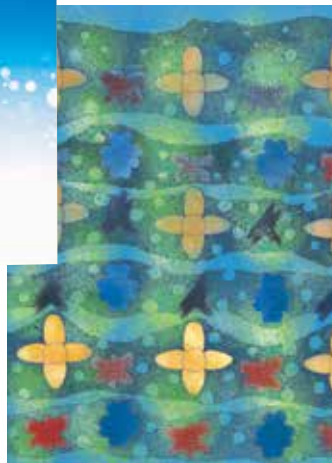


マゼンタ・イン・ザ・スカイ

弟の広平さんの追悼文では、同世代として姉に対する共鳴の文章が綴られています。

姉をこんなにも早く失ったことは、とてつもなく哀しい。失って初めてとても大事な存在だったことに気付かされる。

姉は、他人に対しては正直で優しく穏やかであったが、自分に対しては厳しくストイックな一面があり、ボヤッとしているようだが、突然、



ならべるもよう 小学校2年時作品

思い立ったように行動に移す大胆さもあった。加えて姉は、人一倍家族思いであった。病を患ってから、仕事の面でも相当に苦勞をしていた。心優しい姉にとつて、現代の殺伐とした競争社会は、猛烈に生きにくかったに違いない。そのような状況の中でも、姉は遺稿集に残されているように多くの文章を書き綴っていた。

私はそのことがとても嬉しかった。姉の文章は、繊細ながら力強く、凡人には思いもつかないような面白い発想が散りばめられている。



姉が大学生のころだったろうか、私におもむろに、こう言ったことがあった。「あんな

は根っからの『オモテ』の男ね。私は根っからの『ウラ』の女よ。」

当時、私がサークル活動や飲み会など王道の大学生活を謳歌していたのに対し、自分はアウトローな女子大生活を送っていること（姉は『ウラ』の自分の生き方を好んでいた気がする）を洒落た言葉で言い表わしたのかもしれない。

後に姉は、『マゼンタ・イン・ザ・スカイ』という作品の中で、赤色と青色を1対1の割合で混合した「マゼンタ」という色彩に暗喩して、一人の女性の秘める『オモテ』と『ウラ』の生き方、その間で揺れ動く感情や葛藤を表現している。これを私たち姉弟関係にたと

美術部室で、池袋の街を、館山の海で、と水だけ見て長い時間を共有したことが。一緒にいてくれることが私には何よりも喜びだった。後輩というより、同僚や密友。優しい人柄。温かい笑顔。誠実な人柄。すべてを愛おしく思っています。遅鈍な私と青春がそのときになって、今もいっしょに寄り添って生きています。あつた部室も懐いて...
2014年夏 濱田 研子

えるなら、姉は私を赤色（『オモテ』）、自分を青色（『ウラ』）と例えるだろう。私はむしろその逆に例えたいが…。

姉を失ったとき、哀しみとは別に沸き上がってくる「何か」別の感情があった。今想像えばそれは、私と姉の姉弟関係マゼンタを構成する一色を失った喪失感と憂愁の情だったのかもしれない。

これから姉は私の心の中で確実に生き続けるだろう。朝焼けのようなマゼンタの輝きを保ちながら。

だから、おねえ…安心して安らかに眠って下さい。

母からの手紙

追悼集の編集にあたって



て思い出はつきることなく、幼い頃からのたくさん写真や作品の中から、ご両親の手でひとつひとつ選ばれていく作業は大変なものでした。また、大学での美術部員の方々の追悼文では当時の活躍ぶりも感じとれます。

最後に「母からの手紙」より二年前には両親に弟と二人でイタリア旅行をプレゼントしてくれました。それは一生のすばらしい思い出となっています。由加ちゃんあなたは本当にやさしい子でした。あなたが母さんの子供に生まれてきてくれてありがとう。そして、家族でいてくれて本当にありがとう。これからも、ずっと私たちの家族です。

沙羅のささやき

小野 富美枝 歌集

一日のただ一日のために咲く沙羅のささやき 聞きてもみたし

仏壇の前に座りて経を読み

それより今日の暮らし始まる

開きたる日記に夫の字を追えば

二月二十三日妻風邪とあり

初物は七十五日長生きと

富有柿一つ仏に供う

八ヶ岳の登山が最後となりし夫

遠くより娘と手を合わせた

手術後はICUに一ヶ月

今際の言葉ついに聞き得ず

在りし日は亭主関白亡き今は

やさしさだけが思い出となる

夫の忌に必ず友の供えくるる

百合の白さに心和みぬ

四年目の祥月命日迎えたり

私は元氣と遺影に言いぬ

しばらくは恙なき日を下さいと

遺影に語り病院へ行く

何もかも良性なりと告ぐる医師

退院の声に笑いのこぼる

娘が嫁ぎ息子に長女誕生し

亡き夫知らぬ幸せに会う

うら盆にひととき帰る亡き夫に

この現世は仮の宿なり

空耳か静もる部屋の物音に

夫に呼ばるる錯覚のあり

在りし日に星の名教えくれし夫

自ら星となりて八年

逝くときは先がいいよと言ひし夫

六十六歳早過ぎました

亡き夫の病院日記の文字乱れ

十年たてど涙にじみ来

亡き夫の十三回忌終えし夜

夫の知らざる孫を抱きしむ

見残しの夢の続きを見るように

散りても沙羅は息づきており



意を決して

歌集を出版することに

昭和十年、北九州市生まれ。昭和二十二年より長崎移住。平成八年、健康には自信のあった夫が体調を崩し入院、経過は思わしくなくまもなく手術、そして治療の甲斐もなく他界しました。その時私の心中で何かが崩れてゆきました。当時どのような日々を送っていたか今もおぼろげな思いのままで。

それから一年過ぎた頃、友人の熱心な勧めで長野に本部のある「短歌新潮」に入会致しました。歌友の皆様の励ましもあって毎月十首提出しています。

振り返ってみれば、これまで作った歌もかなりの数になりました。いつか一冊の本に纏めたいということが私の夢でしたので、馬場昭徳先生にご相談致しましたところ、快諾を頂きましたので、意を決して歌集を出版することに致しました。

平成十四年「短歌新潮賞」受賞。

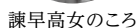
平成十八年「長崎新聞文芸賞」受賞。



母、藤枝 来し方の記

富永健司著

来し方を振り返ると、百年の遙かな道がありました。多くの縁によつて生かされ生きた生涯でした。恵まれなかつた生い立ちや夫との生活。三人の子供が成長するまでの生活のすべては子供のためにありました。また、実家とは家族同様の関係でした。そして子供の友人たちもみなよく知つた人たちでした。折に触れて話していたことや身辺のことを、ささやかでつたない小文にまとめました。感謝と敬愛の念をもつて捧げます。



横綱常陸山関



23歳前後

第一章「生い立ち」

母は、大正四年（一九一五）四月八日生まれ。

本書は、百歳で亡くなられたお母様の生涯の軌跡と母への介護の記録を丹念にまとめあげられた追悼の書です。

相撲好きの祖父は、たまたま地方巡業で諫早に来ていた横綱常陸山（よこ綱 かつらぎ）の湯浴みの湯をもらい受けて産湯としたと聞いています。両親が早くに離婚していたため祖父米倉藤吉に育てられます。家業は「米倉水車」と呼ばれ製菓原料の焙粉と水飴を製造。その後、働き者の祖父は今の天満町に約三百坪の屋敷を構え、母藤枝はここで育ちます。祖父は諫早の高額納税者のひとりでありましたが、身内の不始末などもあり、母にもその影響が及ぶこととなります。昭和七年、諫早高等女学校を卒業。卒業後は、裁縫を本格的に習い、琵琶、華道など稽古（けいこ）ごとに打ち込みます。

その後、実母のいる佐賀へ花嫁修業へ出ます。しばらくして当地の事業家である富永代吉の三男三郎（父）と結婚します。母二十五歳の時。婚姻後、夫三郎の勤務地であった朝鮮の平安北道御宮へ。外地での数度の転勤や長男、次男の出産、子育ての中、昭和二十年八月に終戦を迎えます。夫三郎は、召集地の

第二章「暮らし」

済州島より家族のもとへ向かい苦勞の末、密航船に乗り込み、十月山口県仙崎に上陸、帰国を果たします。戦後、病弱な夫は思うような定職に就くことができないまま昭和三十年二月肝臓癌で亡くなります。母三十八歳の時。

三人の男の子を抱えて途方に暮れた時、富士高等洋裁学校和裁科の採用が決まり、若い頃に習得した裁縫が生計の糧となりました。しかし翌三十二年、自宅は諫早水害に見舞われます。



富士高等洋裁学校時代(左)



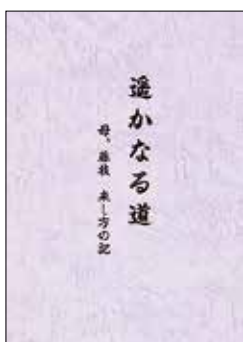
三郎と藤枝の結婚

らも子供たちやその友達、親戚などと喜怒哀楽とともに過してきました。七十一歳で大腸がんの手術。その後、幾多の病苦にもめげず、まわりの温かい介護を受けられていましたが、平成二十七年四月安らかに永眠されました。

「この小文は長男からみた母の人生のほんの一部の断片的なひとこまに過ぎないが、母の存在を遺す私の個人的『紙碑』として、母の供養としたい」と著者の母に寄せる切なる思いが伝わってきます。



99歲



判型.. A5判
頁数.. 一五二頁
製本.. ガンダレ製本
非売品

現代に甦る古代文字の世界

教職退職後記念として、平成十四年 第一回個展を行いました。その時に臨書の学習が必要不可欠なものであると痛感しました。

以後、古典を集中的に取り組み第二回個展として臨書展を平成十六年に発表しました。

その時、小木太法先生より「王羲之以前の研究、金文（古隸）が必要であること、甲骨、金文、篆文を拡大して零から出発する」といい」という内容の手紙をいただきました。

これが私の書への方向づけになりました。

平成二十二年「ロマンあふれる古代文字に魅せられて」というテーマにて第三回個展を行った。その折、ある程度目指すものが見えたようにも思えました。

以後、社会の出来事に注目、その時の思いをテーマにし、古代文字を現代に甦らせることを中心に取り組み現在に至りました。

これからも、古代人が残した文字のもつ造形性やその神秘に満ちた美しさをどれだけ生かせるかを追求していきたい。



人生曼陀羅
(創作)

父子 佛
生母 地
喜母 悲
愛育 死

「曼陀羅」とは仏を祭る壇、またはその絵のことをいう。
人間としての生の誕生から、さまざまな人間模様の中での喜怒哀楽、そしてやがては死に至り仏となる。
そして大地へ帰っていく、そのリンネの世界を曼陀羅として考え、金文でこころみた。



最上静山先生略歴

昭和十六年 長崎県南高来郡加津佐町に生まれ 本名 典政

昭和三十八年 大分県立美術短期大学卒業 有川中学校赴任

昭和四十七年 毎日書道展 秀作 (以後多数入選)

昭和五十二年 独立展 特選

平成十四年 退職 (口之津中学校)

平成十四年 第一回退職記念書展 諫早文化館

平成十四年 独立大作展 入選 (鳴)



第三回 最上静山書展
ロマンあふれる古代文字に魅せられて



第一回 静山書展



第四回 最上静山書展
現代に蘇る古代文字



第二回 最上静山臨書展

平成十八年 第二回「最上静山臨書展」長崎県美術館県民ギャラリー一全室

平成二十年 毎日書道展審査委員 (現在に至る)

平成二十年 中国研修旅行 (上海 西安 北京)

平成二十年 第一回日韓親善交流書展 以後 毎年出品

平成二十二年度 第三回「古代文字に魅せられて最上静山書展」長崎県美術館県民ギャラリー

平成二十四年 独立書人団審査委員

平成二十五年 県書展 審査員として審査

平成二十五年 独立本展第二部の審査員

第四回 最上静山書展―現代に甦る古代文字―

平成二十七年五月 長崎県美術館県民ギャラリーC室

現在

毎日書道展審査委員

独立書人団審査委員

長崎県展審査委員

長崎県書展審査委員

長崎県美術協会理事



第58回 独立書展 虚空の音 10尺(300)×24尺(720)



天地悠久 180×180



原点 34×70

虚空の音

インドには音を表わす二つの言葉「アーハタ・ナーダ」と「アナハタ・ナーダ」がある。前者は物同士がぶつかったときに生まれる音、後者は耳に聴えない虚空の音である。聖者が瞑想を通して、生命のエネルギーを自在にコントロールできたとき初めて聴えるのが「アナハタ・ナーダ」音は神なりなのだという。(雑誌MOKU)

原点

文字とは何か、古代人が何かを伝え残す為に考え出したもので、その造形の源となったのは象形的な線の形で表したもののから始まっている。



敬慕 70×135



萬物不如酒 四時唯愛春 韋莊 90×180



無限 70×137



生涯 70×137



出版本

ここで紹介する出版本は、
サロンゆるりまでお気軽にお問い合わせください。

2016年6月現在

タイトル	著者	定価(税込)
玉鈴 水墨画集	田村 玉鈴	4,860円
キラキラ 人生を輝かせるたった5つの大切なこと	ごうまなみ	1,620円
神様からの贈りもの	幸夏 涼	1,296円
きくちゃんのうた Vol.2	ひらた きくよ	1,620円
きくちゃんの詩	ひらた きくよ	1,296円
平成27年版 諏訪神事 長崎くんち 取材記録	土肥原弘久	1,080円
諏訪神事 長崎くんち 取材記録	土肥原弘久	2,160円
昭和20年8月 長崎市地図	出口 輝夫	540円
長崎半島・汚池姫伝説の謎	境 俊幸	1,028円
ながさき子ども等 3編	永山 絹枝	各1,234円
長崎いさな物語	浦上 修	1,296円
五島雑学事典	永治 克行	2,057円
塩飽史 江戸時代の公儀船方	吉田 幸男	2,700円
もう一人の少年使節ドラード	青山 敦夫	1,200円
ふるさとの昔 島原今昔	宮崎昌次郎	1,620円
決先生の外国史講義	宇田川 決	2,160円
ゆうたくんごめんね	作/東フミ子 絵/関口拓志	1,080円
じゅんくんあそび	作/東フミ子 絵/関口拓志	1,296円
ソシテ・イマデモ	城 加奈子・青木 純子	1,234円
イツモノ・イツカ	白石加奈子・江崎 純子	1,234円
365 +o micca	micca	864円
訓薫諫甘	宮城 ま咲	1,296円
おくさん	松田 純子	540円
夜のカナリアたち	森 ぶんめい	823円
気づいた時が出发点	一ノ瀬恵介・久嗣・裕士	514円
未知への道	中村 士規	1,028円
老いの細道メモリー	中村 士規	1,028円
誰も知らないお経の真理(I)	大嶽 巖	1,543円
英文法徹底詳述集 1冠詞編	一宅 仁	3,024円
ディアコニー	E・バイロイター著 山城 順訳	2,700円
俳句のすすめ	築城百々平	1,234円
松林重宗水彩画集	松林 重宗	3,240円
長崎を描いてさるく	松林 重宗	2,160円
たぬきのおくのぼろ道	堤 けんじ	3,086円
西陲騎葩(せいすいきは)	邑上 益朗	2,800円
Assendelft(アッセンデルフト)	金丸 洋子	3,240円
JOFA式 フラワーアレンジ	日本オリジナルフラワー協会	1,296円
命のすじみち すすむ道	緒方 源信	720円
共存の心やわらぐ 長崎の街	緒方 源信	720円
生きる心の綾錦	緒方 源信	823円
日本人の心はおもしろか	緒方 源信	823円
身体にたのもう!	植田 成文	1,944円
長崎県史のスマイル	植田 成文	1,296円

NEW 新刊紹介

昭和堂・ゆるりで
つくりました本の紹介

長崎くんちのしくみ

土肥原 弘久

- 判型:A5判
- 頁数:112頁
- 製本:ガンドレ製本
- 定価:1,080円(税込)

(問い合わせ先 090-2500-0597 土肥原さんまで)



ひとりごと
一人言 小川 法正
志穂

- 判型:B5ヨコ判
- 頁数:84頁
- 製本:ガンドレPUR製本
- 定価:非売品



平和について 考えてほしい

下田 隆雅

- 判型:115×188ミリ
- 頁数:186頁
- 製本:ガンドレ製本
- 定価:非売品



折りふしの記

竹下 純義

- 判型:A5判
- 頁数:220頁
- 製本:上製本
- 定価:非売品



鄙に生きる

ひのくに叢書 第104篇
あすなろ叢書 第85篇

金子 金重

- 判型:四六判
- 頁数:244頁
- 製本:上製本
- 定価:非売品



自費出版サロンゆりり限定企画

プレミアム自分史

Premium Personal history

自伝を書き記し、感謝の気持ちを皆さんに伝えたい…
代々伝わる貴重な歴史を一族史としてまとめておきたい……
苦難の経営史を子や孫に伝え残さねばと思っている……

など思っているにも忙しくてまとめる時間のない貴方に朗報です。

プロのライター&編集者&カメラマンが貴方をサポートし、
インタビュー形式による自分史・一族史・経営史・記念誌等の制作を致します。

プレミアム自分史はここが違います

- 1 プロのライターによる、インタビュー形式なので、
原稿を執筆されることなく作ることが出来ます。
- 2 執筆・編集・レイアウト・撮影など弊社が行いますので、
原稿づくりに手間どらなくて済みます。
- 3 読んでいただきたい方々へ向けて、
読みやすい文章に仕上げます。
- 4 冷静な視点で自分史を制作しますので、
偏りの少ない良い本が出来ます。
- 5 完成後の配本・発送業務までいたします。



ご依頼主の「想い」を十分に聞き
取ることからスタートします。
プレミアム自分史制作の流れを
ご説明します。
ご依頼の内容に沿った仕様書
(企画書・概算見積り・スケ
ジュール)をご用意します。

詳しく
知りたい方は、
ゆりりへ
ご相談ください!!



NBC
ラジオ モーニング
サブリ

『昭和堂
笑顔のレシピ』
毎週金曜
あさ10:35より

放送中
きいてネ!!

あなたの本や
作品をラジオで
ご紹介!!



建設長崎70周年記念誌

建設長崎70年・長建国保45年のあゆみ



原爆で荒廃し、廃墟と化した長崎の街に建設技能者の先輩たちの高らかに打ち下ろす復興の槌音に、多くの市民が勇気づけられたと言われています。

労働組合法が施行されたのは昭和二十一年三月一日で、翌四月には、我が建設長崎の前身である「長崎日雇労働組合」が五十数名の仲間たちの尽力で結成され、爾来七十年間幾多の困難を乗り越えながら、組合員の「仕事と生活、健康と老後」の不安

を取り除き、社会的地位の向上を目指す運動を組合の基調として闘ってきました。この価値ある歴史を糧に更なる飛躍を目指すために、組合結成七十周年記念誌を編纂しました。

亡き山上光一氏や、池田智忠氏が保存されていた資料に基づき、本誌が発刊できたことを感謝します。

建設産業の明るい未来が展望できるか否か、建設技能者にとって正念場の年であり、国自体も、

将来を左右する大事な年です。また「十八歳選挙元年」として、歴史的にも意義のある年に私たちは存在しています。

七十年の歴史に刻まれた伝統と教訓を大事にしながら、「揺るぎない信念と団結で、飛躍、創出、再生を！」図り、「仕事と暮らしに自信が持てる明るい建設産業」を目指して全力で邁進していきます。

平和な世界が、日本が、建設産業が、どうなっていくか、しっかりと行動し、組合が八十年、百年と継承していくことを望んで止みません。

平成二十八年四月十六日



長崎県建設産業労働組合
執行委員長

北村 政和

「医療と福祉のてびき」

改訂版発行



判型：A4判
頁数：277頁
定価：1,800円（送料は別）

医療と福祉を考える長崎懇談会より、このたび複雑な医療や福祉の制度を分かりやすく紹介する「医療と福祉のてびき」を、五年ぶり五回目の改訂版として出版されました。

答えられるように編集しました。目次も分かりやすいようにイラストを付け「子育て」「障害のある人」「高齢者」「医療を受ける時」「生活困窮」などに分類しました。

本書が医療と福祉の現場で働く方々、地域住民の皆様の身近な手引書として、お役に立てれば幸いです。

発行人／本田 孝也

申込みは懇談会まで

TEL〇九五―八二五―

三八二九

連絡先／長崎県保険医協会

〒八五〇―〇〇五六

長崎市恵美須町二―三

富国生命ビル二階

「医療と福祉のてびき」は複雑な制度にも対応し、どのような制度があるのか、どうすれば利用できるのか、名前は知っているけどもう少し詳しい情報が欲しい、といった読者の素朴な疑問に

訂正とお詫び

ゆるり28号6頁句集「とこしなへ」の中で誤りがありました。訂正してお詫び申し上げます。

正しくは

喪中葉書古里いよよ遠ざかる



第87回

長崎交響楽団 定期演奏会

平成28年

6月26日(日)

開場13:30 開演14:00

時津カナリーホール

入場料

一般自由席: 2,000円

学生自由席(高校生以下): 1,000円

- ♪ ボロディン
- ♪ チャイコフスキー
- ♪ チャイコフスキー

歌劇「イーゴリ公」よりダッタン人の踊り
バレエ組曲「くるみ割り人形」
交響曲第6番「悲愴」

指揮 永野 哲



お問い合わせ 長崎交響楽団事務局 TEL 095-820-1029 FAX 095-832-6570

あなたの想いを 本にしませんか

『ゆるり』とは、囲炉裏の意味。

囲炉裏を囲むように、皆さんで集まっていたける空間に…
との願いが込められています。

和の雰囲気を感じられる空間で、ゆっくりゆるりと、
本づくり談義に花を咲かせてみてはいかがでしょうか。



賑橋電停そば
ファミリーマートより
入って左側すぐ



自費出版サロン

ゆるり

昭和堂ギャラリー

Shoado Gallery KOFU
好風

TEL.095-828-1790

TEL.095-821-1240

FAX.095-823-8740 <http://www.showado.co.jp>

〒850-0875 長崎市栄町6-23 昭和堂ビル2F

本づくりと展示会同時にできます!
貸ギャラリーお申し込み受付中

ホタルの里「有馬湧水」で
うまれた喉ごしなめらか
コシの強い手延べ麺。



竹市製麺自慢のラインナップ

竹市製麺は手延べ製法にこだわり、熟練の技で一本一本丁寧に造り上げています。



有馬の糸 島原手延べ そうめん

つるりとした喉ごしが自慢のこだわり麺!
夏は「冷やし麺」冬は「あったか麺」でお楽しみいただけます!

TS-1	1kg (50g×20束入)	1,400円
TS-2	2kg (50g×40束入)	2,600円
TS-3	3kg (50g×60束入)	3,700円
TS-5	5kg (50g×100束入)	6,000円

有馬の糸 島原手延べ うどん

伸びが良く、大変コシが強いので鍋料理などで煮込んでも、煮崩れしにくい万能うどんです!

TU-1	1kg (200g×5袋入)	1,500円
TU-2	2kg (200g×10袋入)	2,700円
TU-3	3kg (200g×15袋入)	3,800円

有馬の糸 島原手延べ ひやむぎ

独特のモチモチした食感としっかりとした強いコシが特徴!
アレンジレシピなどに使いやすい麺です。

TH-1	1kg (200g×5袋入)	1,500円
TH-2	2kg (200g×10袋入)	2,700円
TH-3	3kg (200g×15袋入)	3,800円

絶賛
つばやき中!!

地方発送承ります

手延べ素麺・うどん・冷麦製造

竹市製麺

TAKEICHI-SEIMEN ARIMANOITO

〒859-2305 長崎県南島原市北有馬町829

TEL.0957-84-3300
FAX.0957-84-3300

ツイッター
フェイスブック

<https://twitter.com/takeichiseimen>
<https://www.facebook.com/take.ari.men/>



長崎県特産
島原手延べ

有馬の糸

有馬湧水・ホタルの里
竹市製麺
TAKEICHI-SEIMEN
ARIMA NO ITO

多くの自然に恵まれ、豊富な湧水を誇ることで有名な長崎県島原半島。その島原半島の南側、南島原市には、知る人ぞ知る名水「有馬湧水」ホタルの里より湧水が湧き出ています。私たち竹市製麺はこの名水「有馬湧水」のすぐ近く、手延べ麺を製造するには絶好のポイントに工場を構えております。

と引き延ばしを何度も繰り返しながら丸2日、手間ひまかけて造る熟成麺です!! 安全・安心はもちろんのこと、こだわりの手延べ製法が生み出す強いコシと、有馬湧水の超軟水により生み出される滑らかな舌触り。ご家庭用から贈答用まで、どなたにも喜んで頂ける商品です。この驚きの食感を是非一度お試しください。



代表者/竹市和生

ゆるり読者様限定「ゆるりを見た!!」で

10%OFF

5,000円以上お買い上げのお客様に限り

さらに!! 手延うどん小袋
2袋プレゼント!!

有効期間 H28.08.31(水)まで